

だんだんと暑さも緩み、食欲の秋到来ですね！

この時期は特に美味しいものが多くて困っちゃいます(^\_^;)食欲が止まりません(笑)！

今月はわんちゃんの糖尿病についてです。最後に恵子先生のコラムもあります。お楽しみに(\*^\_^\*)

## 犬の糖尿病とは？

膵臓で作られるインスリンという血糖値下げるホルモンが不足することで起こります。

インスリンには、血液中の糖を細胞内に取り込む役割があり、不足すると糖が細胞内に吸収されず血液中の糖が異常に増え、余分な糖がオシッコとともに体外に排出されてしまいます。その結果、生きるために必要なエネルギーが体に取り込まれず、さまざまな症状が現れます。

## 犬の糖尿病の症状は？

糖尿病の初期症状としては、オシッコの量や回数が増える、水の摂取量が増えるなどの症状が挙げられます。また、糖尿病では糖が吸収されないため、体重がどんどん減少していきます。症状が進行すると元気や食欲が低下し、下痢や嘔吐などの症状が見られることもあります。高血糖が持続すると白内障といった糖尿病合併症を引き起こすことがあります。

### 初期症状

・たくさん水を飲む

・おしっこ回数、  
量が増えた

・食欲が増したのに  
痩せてきた



### 進行したときの症状

・食欲の低下  
元気消失

・下痢、嘔吐



## 犬の糖尿病の原因

糖尿病は、膵臓内でのインスリンの分泌が出来なくなる減少することが原因で起こります。ではなぜ分泌が出来なくなるのか、下記が原因となっていると考えられています。

### ① 加齢のため

一般的に 7 才以上の犬がかかりやすいといわれています。加齢によるホルモンの減少などが主な原因です。



### ② クッシング症候群(副腎皮質機能亢進症)

クッシング症候群(ホルモン異常の病気)の犬の約 20%が糖尿病を発症すると言われています。

### ③ 黄体期糖尿病

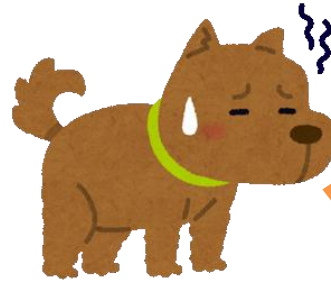
不妊手術をしていない雌犬は糖尿病になりやすい傾向があります。また、黄体期糖尿病といって、発情後の黄体期のみ糖尿病になる犬がいます。

#### ④若年性糖尿病

遺伝により発病すると言われています。極めてまれです。

#### ⑤膵炎

膵炎によって膵臓がうまく機能しなくなり発症します。



膵炎でも食欲不振や、  
下痢・嘔吐などの症状  
が見られるよ。

## 犬の糖尿病の診断

糖尿病の診断には、血液検査と尿検査を用います。また、診断後も継続的な検査が必要になります。

- 血液検査→血糖値の上昇、フルクトサミンや糖化アルブミンの上昇
- 尿検査→尿糖の出現、悪化時にはケトン尿の出現

## 犬の糖尿病の治療

犬の糖尿病はインスリン治療が必要となることがほとんどです。また、食事療法も並行して行い、血糖値をコントロールします。

### インスリン治療

インスリンを注射することで血糖値を安定させます。

1日2回、皮下投与の場合が多いです。



一生お付き  
合いでするこ  
とになる  
よ。

### 食事療法

血糖値の上昇を抑える食物繊維を多く含む

治療食で血糖値をコントロールします



## 恵子先生のコラム

えっ！犬にも糖尿病があるの？と驚かれる方もいらっしゃると思いますが、人と同じ哺乳類

ですから、同じような病気はたくさんあります。しかし人と異なる点は、生活習慣

などが原因で糖尿病になるわけではなく、上に解説してある通り副腎皮質機能亢進症

という病気を持っている犬が糖尿病を発症しやすくなります。犬の糖尿病は人の1型糖

尿病と似ていて、全くインスリンが出なくなってしまうことが多いため治療にはイン

スリンの注射が必須です。糖尿病は治せる病気ではありませんが、インスリン注射で上

手に血糖値をコントロールできれば、生活の質はかなりの向上できる病気だと思います。